

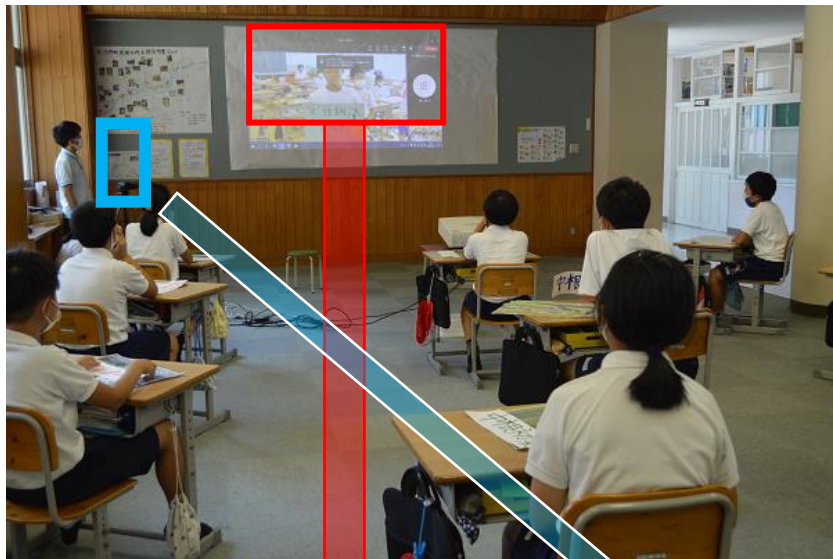
常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 4年 7月 8日(金)

通算 250号

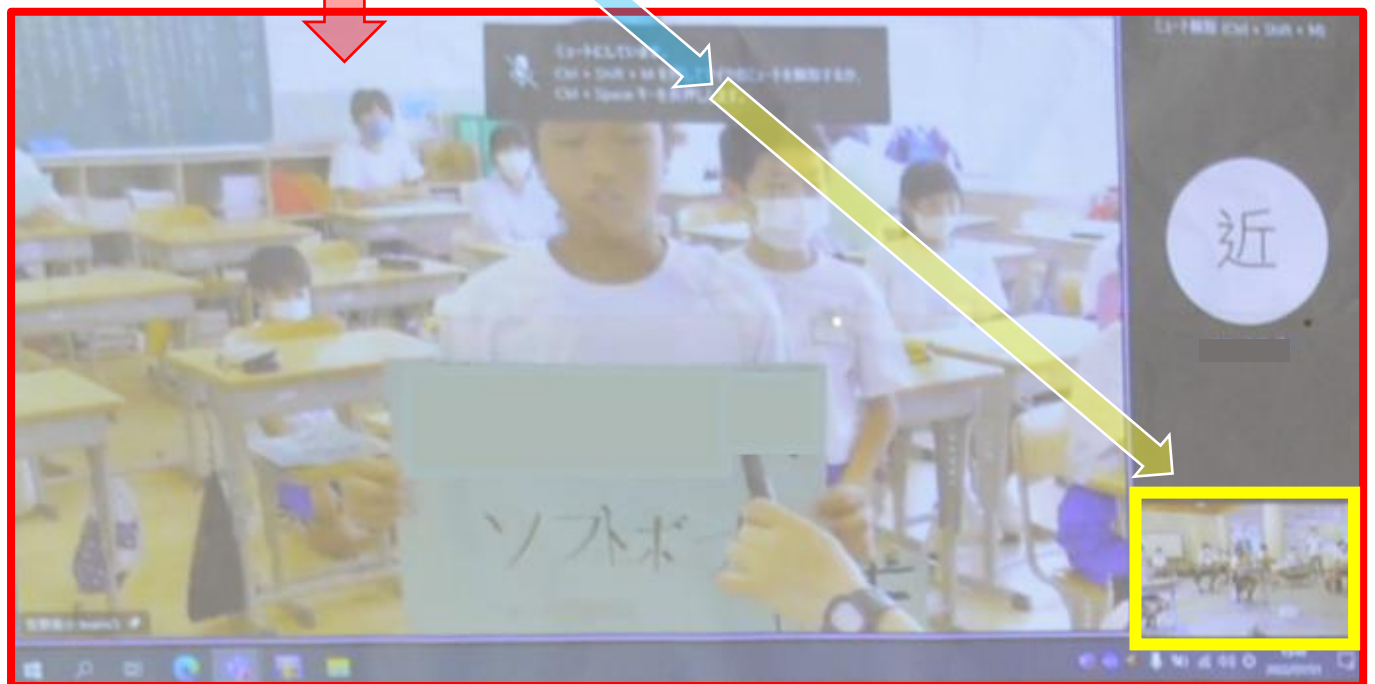
◇ オンライン交流授業（常磐小・常磐南小）に向けて



常磐3校(常磐小・常磐南小・常磐東小)の交流授業がスタートした。

先陣を切ったのは6年生。交流授業の第1回目はアーリーステージ。常磐南小6年生とのオンライン自己紹介&学校紹介だ。

卒園から6年。見覚えのある顔が映し出されると、児童の表情は自然に笑みが浮かぶ。



本校の児童が見ているリアルタイム映像は、常磐南小が発信しているもの。

ほかにも、青色のカメラで撮影している画像が黄色枠の位置に映し出される。常磐南小の児童が見ているのは、この逆になるわけだ。

近未来の学校の学びでこんなことができるとは、10年前は、とても想像もできなかったというのが本音。正直、びっくりであるが、子供たちは何の違和感もなく対応している。この対応力の早さ、柔軟性にも、びっくり。

必要な機材は「パソコン」さえあればできる。この点も驚きだ。

準備としては、両校のパソコンを接続（※アカウント+パスワードが必要）することによりチームをつくる。このチーム内でアプリを介して享受し合うことで、一方通行の発信ではなく、相互のやり取りも可能だ。大掛かりな仕掛けがなくともできる手軽さにも、またまたびっくり。

今回は、児童の視聴のしやすさを優先しての対応。壁面にB紙を貼ってこしらえた「即席スクリーン」にプロジェクターを介した映像を投影したが、常磐南小は教室のテレビで対応していた。映し出された拡大画像はどうしても鮮明度が落ちる。さらに音声を増幅させるための簡易スピーカーを接続したが、ハウリングをおこして逆効果に。学級テレビの方がよっぽど手軽でよいことが分かった。



カメラとマイクも岡崎市視聴覚ライブラリーから借用して対応したが、ピンカメラとマイクが付いている教室パソコンを使えば、これらの機材も必要ない。つまり、現状の環境ですべて対応は可能ということだ。

今回は少々大掛かりとなってしまったが、次への対応が見えた。来週の12日(金)には常磐小学校6年生との交流がある。きっと今回の経験が、次に生かされることだろう。



さて、教室を離れた「オープンスペース」で行ったよさもある。本校の校内施設の最大の特徴を伝えることができた点だ。

校舎新築時は三河地方で初、県内でも2番目にできた憩いの空間「オープンスペース」。

児童が大好きな学校空間を、いい形で紹介できたのは6年生担任の福田先生の手柄だ。

そして、自己紹介に続いて行った学校紹介。6年生が伝えたのは、ぴかぴかの校舎ではなく「青木川での学び」。学び続け、積み重ねてきた学びを校外に、他校の児童に発信することができた。これは、大きな自信になるとともに、次なる学びへの意欲を倍加させる。



青木川を心から大切にしたいという6年生の思いの発信。ここが素敵で嬉しい。

使用環境の整備など、越えなければならない問題もあるが、児童のマイタブレットを介した交流も可能らしい。学校間交流は続く。これからが楽しみである。